られたものであり，もちろん単系統群ではない．では，葉上苔類をひとまとめとして扱うことに，どのような科学的意義があるのかというと，葉上苔類が「葉の上」という特殊な環境に対して共通の適応的形態（葉面に圧着する植物体，扁平で単純な構造の茎，胞子内発芽する大きくて不定形の胞子など）を示すことに鍵がある．著者らは，葉の上は温度と湿度に関して不安定な環境であることが，共通する形態をみちびきだしているのではないかと推定している．もっとも，葉上苔類のほとんどの種はクサリゴケ科（Lejeuneaceae）に属しており，乾燥適応形態のいくつかは系統的な制約を受けているのは間違いない．

中国のコケ植物フロラを扱った最近の出版物では，検討した標本が列挙されるようになり，利用者にとっての価値が著しく向上している．評者は苔類の専門家ではなく，内容（とくに分類学的取り扱い）について詳しい評価は下せないが，北京（PE）に保管されているタイプ標本を検討していないこと（なんらかの事情があるのだろうが），シノニムとして扱っている種を自分たちで検討したのか，あるいはこれまでの論文をそのまま引いているのかはっきりしないことなど，いくつか不備な点は見受けられるが，購入して手元に置く価値は充分にある本である．

（兵庫県立人と自然の博物館　秋山弘之）

□ Dierßen K.: **Distribution, Ecological Amplitude and Phytosociological Chracterization of European Bryophytes** 289 pp. 2001. Bryophytorum Bibliotheca Bd. 56. J. Cramer, Berlin. DM 140.00

本書は筆者の30年以上にわたる研究ならびにその間に集積した欧州産蘚苔類の分布と生態についての植物社会学や生態学に関する情報を集積したものである．6章よりなり，第1章は導入，第2章は欧州産蘚苔類群落のシノプシス，第3章は蘚苔類がよく出現する植生型のシノプシス，第4章，第5章はそれぞれ蘚類，苔類各種についての情報の要約，第6章は570件におよぶ参考文献となっている．ページの大半（pp. 37–260）は第4章と第5章が占めている.そこには蘚類約1300種，苔類約400種が掲載されている．そこでは，種をアルファベット順に配置し，各種について分布域を植生帯，海洋度と垂直分布帯など48項目に関する情報を略号で標記している．項目の多さと略号の組み合わせのためにひと目で各種の分布状況を理解するのが難しい．必要に応じて分布情報の次にレッドデータの評価が欧州基準（IUCN）で示されている．更に生育地の酸性度，栄養要求，汚染や乾燥，熱，光に対する適応度，基物要求，人為環境との関わり度，生存戦略度などに関する情報など盛りだくさんの情報が与えられている．ただ，残念ながら現在，各種についてすべての情報が整っているわけではない．しかしいずれにせよ植物地理学，植物生態学ならびに保全生物学に関わる研究者には有益な文献である．内容的にはデータ集であり，磁気化しておく方が使いやすいかもしれない．

（出口博則）

□Rajbhandari K. R.: **A Bibliography of the Plant Science of Nepal. Suppliment 1.** The Society of Himalayan Botany, Tokyo. 160 pp. Academia Book Co., Tokyo. ¥9,000（送料別）.

1994年刊行の同名の文献目録の続編である．1994年から1999年に発表された報文および前目録に漏れていた報文約600件が，共著者を含む全著者名を見出しとして，簡潔な解説つきで並んでいる．全 160頁のうち目録は78頁，残り82頁は索引である．索引は前目録をも含む累積型で，Subject Index, Index of Place Names, Index of Scientific Names の三種類あり，そのほとんどに短い内容紹介がついている．ネパール植物の研究にきわめて有用な作品である．編者がヒマラヤ植物研究の基礎資料を蓄積し，その利用の便をはかるために，今後もこの方針を維持しようとする努力を高く評価したい．その一助として，今後蓄積量が増すにつれて見込まれる，累積型索引についての問題点とその対策について意見を述べておく．初巻は目録162頁に対して索引83頁で，その比は1：0.5であるが，本巻では1：1の比になっていることからわかるように，累積型索引は各巻の目録量にかかわらず急速に増加するので，後になって整理が追いつか